



# 志木二小だより

令和元年12月号

志木市立志木第二小学校

志木市館1丁目2番1号

TEL 472-0540

学校教育目標 **進んで学ぶ子 心の豊かな子 体をきたえる子**

児童数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	たんぽぽ	11/24現在	昨年同時期
	75	95	72	77	87	100	13	519	535

## 「ONE TEAM」を形に ～

校長 齋地 満

先月まで、日本でラグビーワールドカップが行われたことは、記憶に新しいことと思います。日本代表は、予選リーグを突破し、決勝トーナメントに進みました。準々決勝で惜しくも南アフリカ代表に敗れましたが、ベスト8という輝かしい成績をおさめました。体の大きい相手に、正々堂々と正面からぶつかり、力の限り戦う日本代表の姿にたくさんの感動と勇気をもたらしました。最近では、日本代表選手をメディアで見ない日がないほど、ラグビー人気が高まっています。子ども達も選手の名前をよく知っていました。

ラグビーワールドカップで、代表選手になるには、①出生国、②両親・祖父母の誰かが生まれた国、③3年連続して居住した国のどれかを満たさなければなりません。「一人の選手は、一カ国の代表にしかねない」というルールがあり、もう他の国の代表選手になることはできません。日本代表にも、7カ国から15人の代表選手がいますが、日本の代表選手として、戦うことを決意したのです。とは言え、それぞれの国で、言葉や考え方、食べるものなどは、違っています。日本選手を含め、代表チームができたころは、自分のことだけに集中したり、文句を言ったりして、なかなか、まとまりがありませんでした。しかし、「日本が勝つために全力を尽くす」という思いや「優勝を目指す」という目標は、チーム全員同じなのです。そこで、気持ちを一つにして、チームの結束を固めたいという考えから生まれたのが「ONE TEAM」という合言葉です。

チーム全員で真剣に話し合いを重ね、互いに声をかけ合い、よりよい方法や正しい考えを取り入れていったことで、チームはどんどん強くなっていきました。主将のリーチ・マイケル選手は、インタビューの中で「ワン チームになれたことで、ベスト8を達成できた。」と話していました。

先日、志木市代表として、南部地区の音楽会に参加した6年1組が、中央大会に出場することになりました。また、市内音楽会に出場した6年2組・3組の演奏も他校の児童や先生から「すごい、感動した」との声が聞かれるほど、素晴らしいものでした。どちらの演奏も田坂教諭の指揮のもと、演奏者一人ひとりの音色が一つとなり、見事に曲想を表現することができました。小中連携で、志木二中の鈴木教諭にも専門的な指導を頂いたことも大きな力となりました。6年生の「最高学年として、ベストを尽くしたい」という思いが、「ONE TEAM」として形となり、胸が熱くなりました。

それぞれのクラスがあって、学校があります。それぞれの家庭があって、学校・地域があります。今後も、「生き生きと 瞳輝き 笑顔あふれる学校づくり」に向け、「ONE TEAM」として家庭・地域・学校がスクラムを組み、子ども達のため、力を尽くしてまいりますので、ご協力をお願い致します。最後に、本年も温かいご支援をありがとうございました。よいお年をお迎えください。